

今日のトピック

米金融政策は現状維持、利上げに向け一歩前進

ポイント1 景気・物価判断は据え置き

労働市場の判断が一歩前進

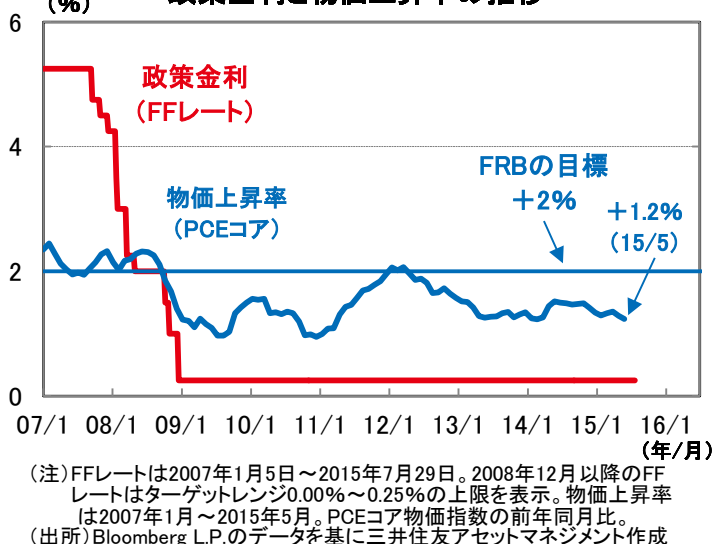
- 7月28日～29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で現行の低金利政策の維持が決定されました。
- 声明文における全体的な景気の評価は前回と同様、「緩やかに拡大」でした。物価も、「足元のインフレ指標は依然低水準である一方、中長期的なインフレ期待は引き続き安定」が据え置かれました。
- ただし、労働市場の判断については、「労働資源の未稼働部分は縮小した」とし、前回の「幾分縮小した」から前進しました。

ポイント2 フォワードガイダンスを維持

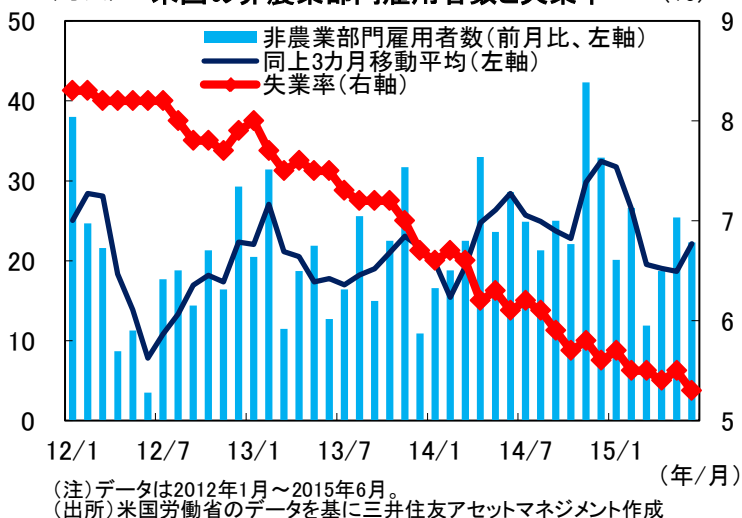
労働市場の「もう少しの改善」に注目

- 金融政策の先行きを示すフォワードガイダンスについては前回と同様、「労働市場がさらに改善し、物価上昇率が中期的に2%の目標に戻っていくと合理的に確信(reasonably confident)した場合は、フェデラルファンド(FF)金利の目標レンジの引き上げが適切になる」という文言が維持されました。
- 声明文では、利上げに踏み切るには、労働市場の「もう少しの改善」が必要としており、前回の「さらなる改善」から一歩進んだ形です。利上げに向けた地ならしが着実に進んでいると考えられます。

政策金利と物価上昇率の推移



米国の非農業部門雇用者数と失業率



今後の展開 利上げが開始されても、その速度は緩やかなものになる見通し

- 今後、発表される7月、8月の雇用統計が「もう少しの改善」を示せば、9月16～17日に開催されるFOMCで利上げが決定される可能性があります。
- ただし、インフレ率がFRBの目標である2%を下回っている状況を踏まえると、利上げが開始されたとしても、利上げの速度は緩やかなものとなる見通しです。

ここも チェック!

2015年07月22日 最近の指標から見る米国経済(2015年7月)
2015年07月22日 「賃金上昇率」は加速の見通し(米国)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。